

産官民でつくる 新しい地域活性化のカタチ

早川町での活動について



2016年9月3日

やまなし水源ブランド推進協議会
公益財団法人 オイスカ
田中美津江

協議会の概要



大都市の人々の生活を支える「水源地」

山梨県 早川町・丹波山村・道志村



山梨県

長野県

埼玉県

林業の再生

- 株式会社イトーキ
- シナブテック株式会社

官

産

民

地域の活性化

- 早川町
- 丹波山村
- 道志村
- 山梨県工業技術センター

東京都

神奈川県

道志村

地域材利用促進

静岡県



- 公益財団法人 オイスカ
- NPO法人 木netやまなし
- NPO法人 道志・森づくりネットワーク
- やまなしの翼プロジェクト

協議会メンバーの紹介



官公庁

早川町 丹波山村 道志村
山梨県工業技術センター

会長 辻 一幸
副会長 岡部政幸
副会長 金丸信吾

民間団体

公益財団法人 オイスカ
NPO法人 木netやまなし
NPO法人 道志・森づくりネットワーク
やまなしの翼プロジェクト

事務局 田中美津江

企業

株式会社 イトーキ
シナプテック株式会社
株式会社 佐野建築研究所

オブザーバー

林野庁 山梨森林管理事務所
山梨県 林業振興課

外部ブレイク

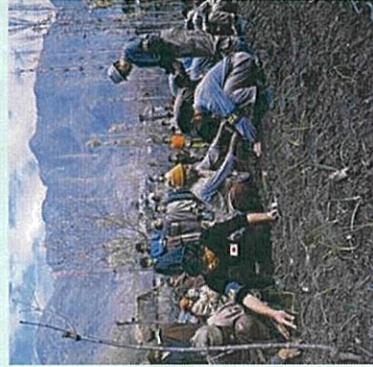
東京大学 生産技術研究所
山梨大学 大学院医学工学総合研究部
秋田県立大学 木材高度加工研究所



オイスカの活動



- 50年前から農業の技術指導を元に
地域開発を実施



- 海外での経験を踏まえ
「ふるさとづくり」
活動がはじまった！



- 近年、会員から国内での活動を求める
声や、企業などから社会貢献活動の相
談が寄せられるようになった

オオイスカの活動



森林整備活動 (企業の森)

木net やまなしの活動



森林整備から材の活用に発展 (森の循環)



やまなし水源地ブランド推進協会



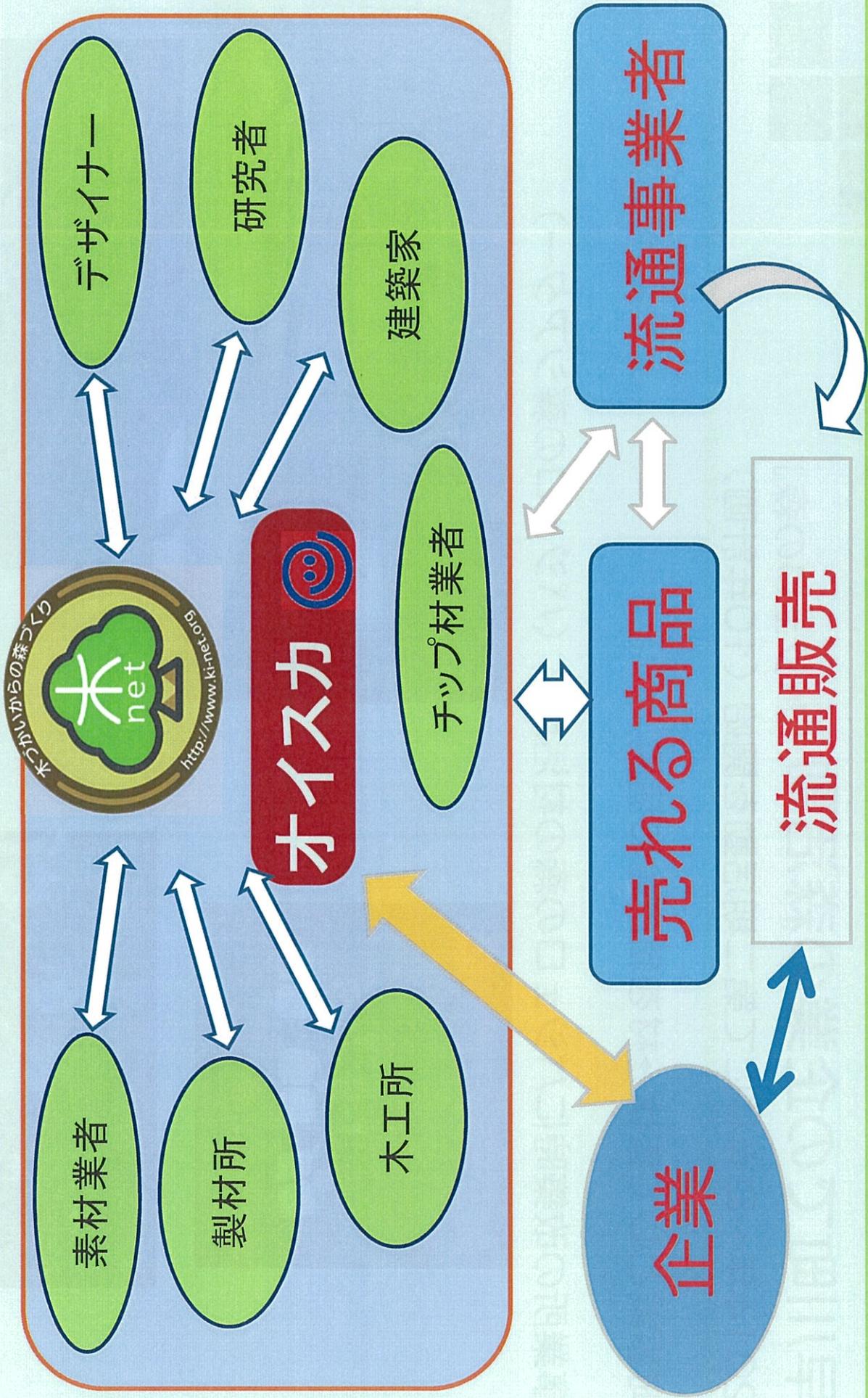
市場のニーズにあったと流通形態の整備

活動を通して見えて来た課題！

バラバラに努力している状態
↓
安定的な循環につながらない



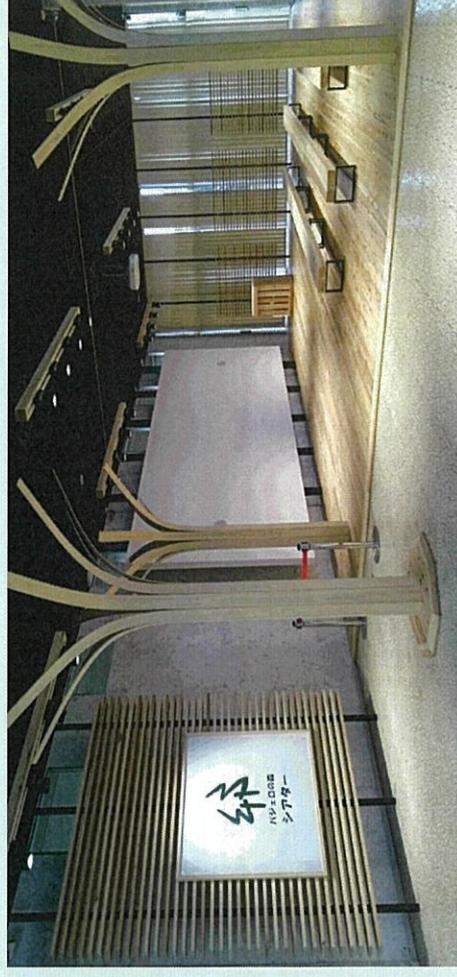
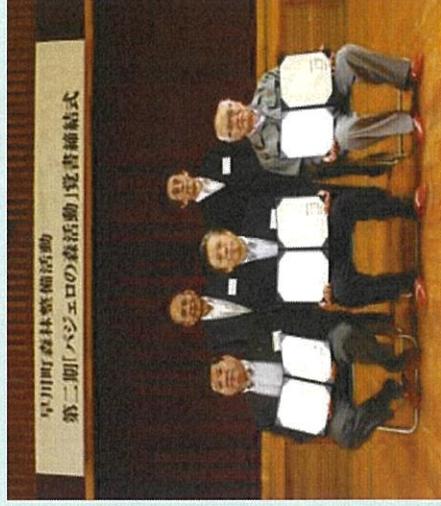
オイスカの活動を通じ集まった仲間



早川町での企業の森活動 「パジエロの森」 2014年～町有林にて第二期活動を開始（10年計画）

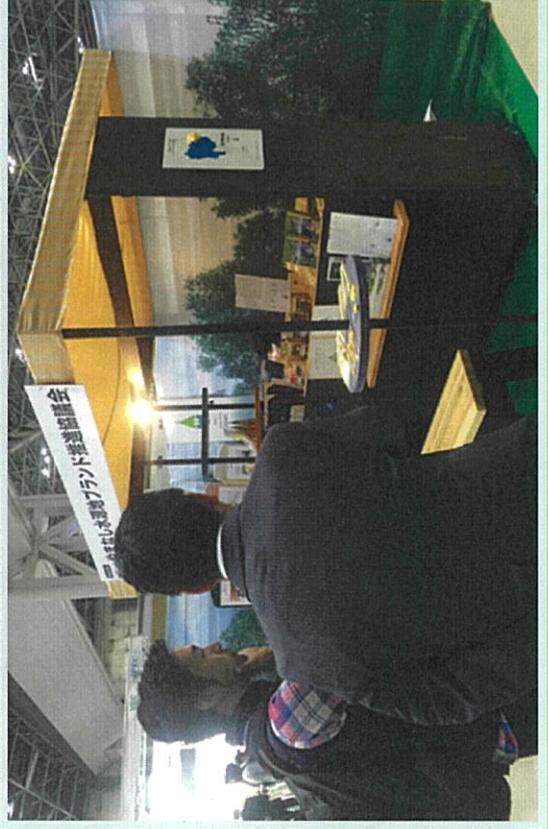
町事業として皆伐→材を新庁舎に活用

事業所の改築時にパジエロの森の材活用 （パジエロの森シアター）



水源地ブランドの訴求・告知活動

【エコプロダクツ展2015出展】



ウッドデザイン賞

やまなし水産園ブランド推進協議会



BANCO

簡易組立式ベンチ&テーブル【BANCO】

手軽な組み立て式

脚パーツは脚を差し込み、タコソコを材料転写させて固定します。道具を使わずに、手で組立てることができるので、誰でも簡単に組立てられます。また、タコソコが固定されるので、座席部分の脚パーツを動かすことができます。

つなげて使う

BANCOは連結しても大丈夫。脚パーツは固定したままに、脚パーツ同士を接続して、ベンチやテーブルの間に繋げると、ベンチやテーブルとして使えます。

道具を使わずに簡単に組み立てられるスクッキング家具。持ち運びしやすく、振動の強い方が得意なので、アウトドアやイベント会場などに、使い方のバリエーションは多岐です。

引



特別賞



開発のきっかけ

品川区やまなし水産園ブランド協議会が、品川区商工振興会の呼びかけで、区内の事業者と共同で「品川区ベンチプロジェクト」を立ち上げ、市民の生活環境の向上を図るため、ベンチやテーブルの開発を進めました。BANCOは品川区商工振興会の主催する「品川区ベンチプロジェクト」の一環として、品川区の事業者と共同で開発されました。

ワークショップ開催

BANCOの開発にあたっては、品川区商工振興会の呼びかけで、区内の事業者と共同で「品川区ベンチプロジェクト」を立ち上げ、市民の生活環境の向上を図るため、ベンチやテーブルの開発を進めました。BANCOは品川区商工振興会の主催する「品川区ベンチプロジェクト」の一環として、品川区の事業者と共同で開発されました。

ウッドチャレンジ



JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2015

やまなし水産園ブランド推進協議会



COYA & MARCHE

木製モバイルボックス「コヤ」

COYA & MARCHEが、人が集い賑わう場所に楽しさをお届けします。商業施設やイベント会場など、使い方のバリエーションは多岐です。

木製モバイルボックス「コヤ」



運んですぐに使える

コヤは木製モバイルボックスとして、トコソコ（ユニット）単位で運んで設置し、すぐに使えるように設計されています。そのため、完成まですべて工場で行われます。そのため、合理的な生産が可能になり、高い品質が確保されます。

木造建築の構造

コヤは木製モバイルボックスとして、木造建築と同様の構造を採用しています。柱は木材で、壁は石膏ボードで、床はフローリングです。そのため、木造建築と同様の構造を採用しています。また、木造建築と同様の構造を採用しています。そのため、木造建築と同様の構造を採用しています。



使いながらストックする

コヤは商業施設の設置場所として、設置場所に応じて、コヤを複数台設置し、使いながらストックすることができます。そのため、コヤを複数台設置し、使いながらストックすることができます。そのため、コヤを複数台設置し、使いながらストックすることができます。

つなげて使える

運送ボックスで運送したコヤを複数台つなげて、ベンチやテーブルとして使えます。そのため、コヤを複数台つなげて、ベンチやテーブルとして使えます。そのため、コヤを複数台つなげて、ベンチやテーブルとして使えます。



組立式屋台「マルシェ」



移動、組み立てが簡単

MARCHEは移動や組み立てが簡単に行えるように設計されています。そのため、MARCHEは移動や組み立てが簡単に行えるように設計されています。そのため、MARCHEは移動や組み立てが簡単に行えるように設計されています。

コヤと組み合わせて使う

MARCHEは移動や組み立てが簡単に行えるように設計されています。そのため、MARCHEは移動や組み立てが簡単に行えるように設計されています。そのため、MARCHEは移動や組み立てが簡単に行えるように設計されています。





協議会ならではの販売形態

品川区、品川商店街連合会へのベンチ納入、イベント実施
商店街の活性化に協力



納入事例

【JR東日本 八王子支社 甲府駅】



数字からみた活動実績

	木net 売上	水源地協議会活動費
24年度	14,700,000 (助成金2,100,000)	6,400,000
25年度	20,200,000 (助成金2,930,000)	17,530,000 (県補助金8,000,000)
26年度	29,270,000 (助成金1,910,000)	13,260,000 (国補助金1,500,000)
27年度	32,310,000	27,989,000 (県補助金7,000,000) (国補助金14,000,000)

協働から生まれた成果



日本一人口の少ない町が 地元らしさと向き合った

新庁舎建設の基本理念

「ひとにやさしく利用しやすい庁舎」「防災拠点となる庁舎」「機能性を重視した庁舎」「環境にやさしくぬくぬく感じられる庁舎」

○農山村地域の活性化への貢献・人材の発掘・育成

地元産の杉や松の伐採・搬出を地元で早川町森林組合へ委託することで、地域雇用の創出・拡大を図った。新庁舎建設途中の上棟時には、町民向けにワークショップを行い、地元産の木材がどのような過程を経て町役場で使用されているかを紹介。建設現場見学会では、町民の利用するスペースでの地元産木材の使われ方を知り、樹種の違い等に直接触れもらう機会を設けることで、今後の段階的・地域力の向上・活性化・人材の育成につながるよう努めた。

○地元らしさのデザイン

受付カウンターは、サイズの違う部材・色・樹種を組み合わせ、地域の観光資源であるフォッサマグナの大断面をイメージするデザインとして製作。また、地元産のすずり石をアクセントとしたパンフレット棚を製作し、木材だけでなく異素材とのコラボによるデザインを行った。

○木材利用の追求

間伐材の利用だけでなく、職人不足により森林の手入れが行き届かず、枝打ち等が頻繁に行われないことで、節が多く構造材としては使用できない材木や、梁等構造部材とする芯部以外の部分を家具や内装材として積極的に使うことで、木材利用の可能範囲を広げた。

○町の将来へつなげる

将来この町の主役となる子どもたちに、町の四季をイメージする絵を描いてもらい、外構タイルへ転写し使用することで、町の未来へ人をつなげるストーリーに取り組んだ。

○森林保全や地球温暖化への貢献

森林保全、地球温暖化防止のため、森林伐採後は、企業の森として活用され企業社員やその家族と共に苗木の植樹及び森の整備・再生に取り組んでいる。建築的には、天井の高い講堂兼大会議室を床吹き出し空調とし、室内空気環境の改善・省エネルギーに配慮している。



建築作品部門

低炭素社会の推進

森林・水・生態系などの自然資源の保全と活用

山梨県早川町

早川町役場新庁舎

山梨県の南西部に位置し、南アルプスの山々に囲まれた自然豊かな町、早川町。町の面積の96%を森林が占め、過疎と高齢化が進む「日本一人口の少ない町」である。本施設は、その町で50年以上の間、地域に大切にされてきた旧庁舎の建て替えである。新庁舎は、地下1階地上2階建てで、勤務する職員は約40名。1階は主に執務室、2階は多目的に利用できる講堂兼会議室、地下1階は防災備蓄品などを収納する倉庫として利用している。土砂災害の危険が否めない地域であることから、安全面に配慮し、地下及び1階はRC造、2階を木造とする混構造とした。木材の使用箇所にはメリハリをつけ、来庁者が主に利用する公共エリアで重点的に木材を使用した。構造材や内装材、木製備品には、地元早川産及び山梨県産の木材を用い、建設途中の上棟時には、町民を対象に木造建築に触れてもらうワークショップを催し、真の地産地消を追求した。

応募代表者：長井 隆志

株式会社 佐野建築研究所

設計者他：長瀬 和代 山下 公俊

家具製作者：株式会社イトーキ

今回、設計者に与えられた課題は「早川町らしい庁舎にしてほしい」ということだったが、早川町らしさとは何であるかと考えあぐねた結果、私が辿り着いた「早川町らしさ」とは、町長さんを代表するこの町の方々の「素朴な暖かさ」と日本人の少ない町といえながら「凛」として胸を張り前向き、精神性の高さ」である。「素朴な暖かさ」は、地元産の木材で表現し、「精神性の高さ」は建物外観で「凛」とした立ち姿として表現した。そして何よりもこだわったのは、「素朴な暖かさ」を受け継ぐこの町の子ども達に庁舎建設に関わってもらうことでの「人づくり」。今後、「しき」が輝いてゆくものと考えている。



ご清聴ありがとうございました。

